

地方自治体の戦争国家づくりへの協力にNO!の審判を! 京都で戦争を止める市民の動きが活発化しています!

京都祝園(ほうその)
ミサイル弾薬庫問題を考える
住民ネットワーク発足(1月14日)
坪井 久行さん(精華町)

戦争国家づくりには、府内の基地強化等、自治体の協力が不可欠です。これにきつぱりノーを示す動きが活発化しています。以下ではその運動の状況を紹介します。

去る1月14日、祝園弾薬庫をめぐる緊迫した事態の



熱心な討論がおこなわれた準備会

中、弾薬庫所在地の精華町、京田辺市をはじめとする京都南部や奈良市、枚方市などの様々な平和団体や個人が集まり、ミサイルの弾薬庫への保管(配備)の危険性を考え、平和・安全な地域を実現しようとする住民ネットワーク準備会が発足しました。

祝園弾薬庫は、2024年度予算で、4億円の調査費が計上されていますが、防衛省は、調査の結果、「適地」と判断したとして、2024年度予算案に、当弾薬庫内の火薬庫8棟及び弾薬庫整備場の整備、隊庁舎の建替え等の設計・工事に102億円を計上しました。これは、同時に火薬庫が建設される全国各地の基地を額でも棟数でも上回る、まさに全国一

の基地になることを意味しています。しかし、防衛省は、「火薬庫に保管される弾薬の種類についても、防衛上答えられない」としています。今後、24年度に基本検討し、25年度から設計、造成工事に着手する予定です。しかも、「海上自衛隊との共同運用を進めていく予定」です。



準備会で報告する片岡明理事長

「時事通信」によれば、「舞鶴基地配備のイージス艦のトマホークの火薬庫不足のための保管ではないか」としています。さらに、「土地利用規制法」の監視区域に指定されようとしています。まさに重大な事態。住民ネットワークは、住民に事実を知らせ、平和と安全のために、立ち上がろうと話し合いました。ネットワークは2月に総会を開く予定です。

昨年12月18日、京都憲法共同センター(以下センター)とするは京都市に対して、自衛隊への名簿提供の中止を求める要請行動を行い、京都平和委員会から片岡明理事長が参加しました。

京都憲法共同センターが、
自衛隊への名簿提供中止を求め
京都市へ要請行動(12月18日)

センターは京都市に対して、①京都市による自衛隊への個人情報提供は、いかなる形でも問題であり、即刻中止、撤回されるべき、②2024年度も同様の判断をするのか、2023年度までの経過を明らかにすること③個人情報保護の観点から、提供予定市民全体の意思に沿って適用除外の方法を具体化し、全対象者に周知する④今後、自衛官募集・広報に関わるいかなる協力もおこなわないこと。以上4点について、要請を行いました。要請に対して京都市側は、①について、法に基づく依頼であり、提供する方向②について、2024年度も同様に判断したい、

2023年は提供、除外申1件で、不在返信が数十件あった③④について、法定受託事務として実施。HPでの広報について他県でのLINEによる広報も考えている等の回答がありました。

回答をうけてセンターは、原則として個人情報提供をやめるべきで、地方自治の本旨から閲覧であつても拒否すべきだ。そして、市長が替わる時期でもあり、新市長に上申する等、中止ないし再検討すべきで、それまでは提供をしないようにと京都市側に



担当者へ要請書を手渡す梶川代表委員

(ウラ面へ続く)

改めて要請しました。センターは自衛隊のハラスメントなどの不祥事問題をもって名簿提供の再検討などしないのかと市側に求めましたが、京都市側からは新聞などで推移をみているとの回答に留まりました。センターは「情報提供の主体」として自衛隊に毅然と対応すべきだと改めて主張しました。またHPでの広報のみでは「当事者」に情報が伝わらない、拒否の意向があっても申請にまで至らないと広報の仕方について改善を求めました。

それに対し京都市側からは、他県の方法も念頭に考えてみたい(というやりとりで確約はない)との返事がありました。最後にセンターは、自衛隊は「徴兵のための名簿確保」であり、覚書での個人情報保護については検証するべきだ。宛名シールの提供で自衛隊員の応募が増えたわけでもなく宛名シール提供は再考するべきだと述べ、要請を終えました。

京都平和委員会は、自衛隊への名簿提供問題に今後取り組み進んでいきます。

京都の平和友好・宗教者連絡会がよびかけ
京都の2月、福ちゃんと一緒に鬼退治

【平和】な京都をつくる 仲間の集い(1月13日)を開催!

京都平和委員会も参加する京都平和友好・宗教者連絡会は2月4日投票の京都市長選挙に立候補を表明している福山和人さんに平和の思いを託し、市長に押し上げるため、1月13日、「平和な京都をつくる仲間の集い、京都の2月、福ちゃんと一緒に鬼退治」を開催。この集いには、関西の平和友好団体の方々も応援に駆けつけ、50名を超える活気あふれる集いとなりました。



福山さんが暖簾をアピールする

集いでは最初に「つなぐ

京都2024」の中野さんが、裏金問題等でゆれる他候補の動きや379人も削減した門川市政を批判し、「公共」の在り方が問われていると訴えました。続いて被爆者懇談会で語り部を続ける胎内被爆された被爆者懇談会の三山正弘さんから核の脅しを続けるロシア、イスラエルの報道から核兵器廃絶の願いを福山さんに託したいと発言、さらに日朝協会の福谷さんからは35年間、上下水道局勤務の経験から京都市の歪みが訴えられました。

福山さんが戦争に
つながる動きに

反対する決意を表明

ここで会場参加者の熱烈な歓迎の中で登壇した福山さんはウクライナ兵士との対談の経験から、条をもつ日本は信頼され

ている稀有な国であり、地方自治体の役割として戦争につながる政府の動きに反対する市長として、全世界に発信したいとの決意が述べられました。その後の激励の時間では、参加者から多くの激励品が手渡されました。特に暖簾の言葉がはいった福山さんの言葉がはいった暖簾や参加できなかった方から重い大根のプレゼントに福山さんは「大根、大好き!」と冗談を飛ばし、会場を沸かせました。

片岡明理事長が

戦争協力事務をしない

京都市の実現をアピール

続いて片岡明京都平和委員会理事長から京都市の自衛隊への名簿提供問題で、福山さんが個人情報保護条例にもとづく「利用停止請求」等、複雑な手続きの代理人として奮闘された経験や「重要土地調査法」に関して、米軍経ヶ岬通信所がある京丹後市では「情報提供の場」を設ける等、の実績を報告。「戦争協力事務をしない」と非核・平和都市宣言に明記している京都市が住民の安



自作曲でアピールする鈴木さん

全・安心を確保ための施策をおこなうことを選挙の争点として戦う重要性が強調されました。

他府県から応援メッセージ、

自作曲のアピール、

集会終了後、街頭宣伝!

他府県から兵庫原水協の梶本さんが、非核神戸方式の経験から地方自治体の在り方が問われている。「日本の夜明けは京都から」を再現してほしいとの発言。続いて日本共産党の比例立候補予定の堀川あきこさんが、ガザ侵攻を一刻も早く終わらせるため京都市長が憲法前文を生かした情報発信が必要、そのためにも福山市長の実現を訴え、次に滋賀宗平協の木田さんが戦争に協力した過去と平和のために協力したいとの発言があ

【選挙募金の結果とお礼】

京都平和委員会では昨年、会費請求の折に会員みなさまに京都市長選挙の募金の訴えをさせていただきましたが、何かと大変な時期にも拘わらず、44名の方から120,127円(1月21日現在)という募金を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。

頂きました募金は「つなぐ京都2024」と「京都民主市政の会」にお届けいたします。

京都平和委員会



集会終了後、西院での宣伝行動

り、続いて京都宗平協の鈴木君代さんが自作の曲を披露、「殺してはならない!」とのアピールをおこないました。
最後に能登半島地震への支援募金と市長選挙の募金が訴えられ、集会は50名を超える参加者で盛会のうちに終了。その後、西院に移動し、福山支持を訴えました。